

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、此の度弊社では、HIV (ヒト免疫不全ウイルス) 感染の確認用検査として従来の「HIV-1抗体《確認試験》」に加え、「HIV-2抗体《確認試験》」検査を受託開始することに致しました。

これに伴い、専用報告書の書式が変更となりますので、別項にまとめました運用詳細をご精読の上、宜しくご理解、ご了承を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

[3067] HIV-2抗体《確認試験》

受託開始日

平成18年4月1日(土)

HIV-2 抗体《確認試験》

HIVは血清学的、遺伝子学的性状からHIV-1とHIV-2に分類されます。HIV-1は世界的な流行を形成するウイルスですが、これに対し、HIV-2の流行は西アフリカ地域に局限し、これらの国と関連の深いフランス、ポルトガル、スペイン、米国等で散発的な発生が報告されています。我が国では過去2例の感染が報告され、いずれも国内に在住する外国籍の人でした。

弊社ではHIV-1抗体のウエスタンブロット法やHIV-RNA検査による確認試験を受託しておりますが、新たにHIV-2抗体のウエスタンブロット法による確認試験を受託開始致します。スクリーニング試験で陽性にも拘らず、HIV-1確認試験の結果が陰性ないし判定保留となった例ではHIV-2抗体の確認試験実施が推奨されます。

検査要項

項目コード	3067
検査項目名	HIV-2抗体《確認試験》
検体量	血清 0.6 mL *1
保存方法	冷蔵
検査方法	ウエスタンブロット法
基準値	陰性*2
所要日数	3～9日
検査実施料	370点*3(「D012」感染症免疫学的検査の「36」)
検査判断料	144点(免疫学的検査)
定価	5,000円
備考	

主な対象疾患

後天性免疫不全症候群
HIV感染症

関連検査項目

HIV抗原・抗体《スクリーニング》
HIV-1抗体《確認試験》
HIV-1RNA定量

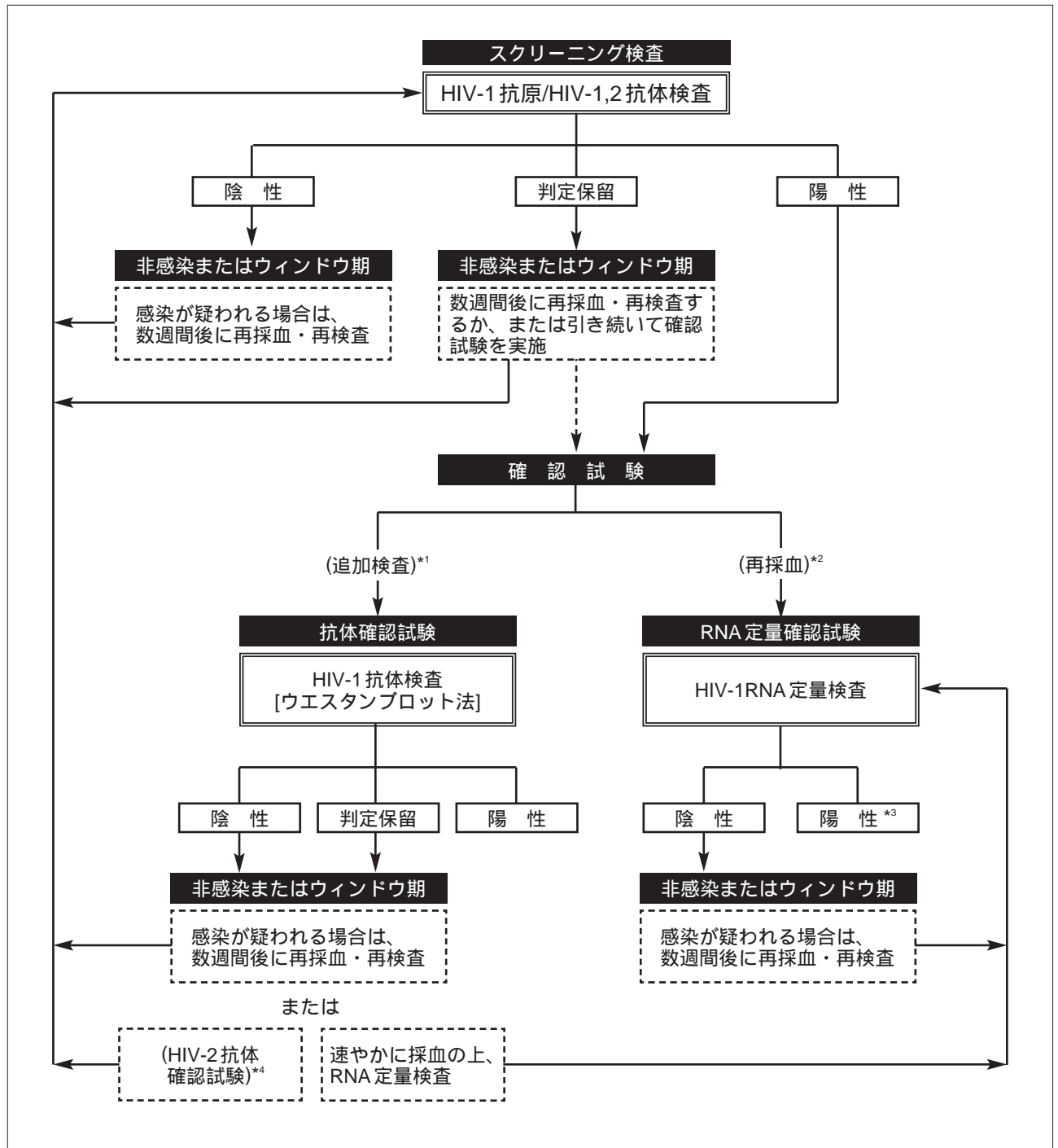
[注]

- *1: 検体提出の際は、プライバシー保護のため、被検者名はイニシャルまたはID番号とすることにより匿名化されるようお願い致します。
同一検体で他項目との重複は避け、必ず弊社所定の専用容器(容器番号:62)を使用した単独検体としてご提出下さい。
- *2: 判定基準は別項を参照下さい。報告はHIV-2特異バンド; ENV(GP140、GP105、GP36)、POL(P68、P34)、GAG(P56、P26、P16)の有無をそれぞれご報告致します。
HIV-2抗体検査は、HIV-1抗体陽性の場合(免疫学的な交差反応により)やその他の非特異的反応により偽陽性となることがありますので、HIV-2抗体陽性時の結果の解釈にはご注意ください。
- *3: 実施料には平成18年4月1日以降適用予定の新点数を記載しています。
また、スクリーニング検査が陽性の場合のみ算定可能です。

参考文献

菱田 靖, 他: 医学と薬学 27: 959-970, 1992.

HIV 感染の新しい検査判定手順



* 1: スクリーニング検査と同一の検体にて検査可能です(専用容器での提出をお願い致します)。

* 2: RNA の不安定性、コンタミネーション防止のため、再採血が必要です。

* 3: RNA 検査単独陽性(ウエスタンブロット法陰性)の場合には感染初期の可能性が高いため、数週間後にウエスタンブロット法の再検査を行い、抗体陽転を確認することをお勧め致します。

* 4: スクリーニング検査が陽性(または判定保留)で HIV-1 抗体ウエスタンブロット法が陰性(または判定保留)であっても、HIV-2 抗体陽性の可能性も考えられます。従って HIV-2 抗体ウエスタンブロット法(別途ご依頼により実施)による追加検査をお勧め致します(判定手順は HIV-1 同様)。

ウエスタンブロット法による HIV-2 の判定基準

判定	判定基準
陽性	ENV + GAG + POL バンドが出現
判定保留	陰性、陽性と判定されない
陰性	HIV-2 特異バンドが出現しない

判定基準は、検査試薬キットの判定基準に準拠したものです。

HIV-2 主要遺伝子と遺伝子産物 (構造蛋白)

遺伝子	遺伝子産物 (構造蛋白)
エンベロープ (ENV)	GP140
	GP105
	GP36
ポリメラーゼ (POL)	P68
	P34
コア (GAG)	P56
	P26
	P16

GP ; glycoprotein , P ; protein
数字は概算分子量 (kD)